

## 関西秋の交流会

# 「2009年関西地区喘息患者の集い」開催される

「集い」実行委員会代表 矢原正利

10月25日(日)秋晴れの中、「ハートピア 京都」にて関西交流会が開催されました。当日の参加者は、55名で、愛知県、三重県などの遠方よりも早朝から参加頂きました。又、5団体の患者会代表の方にも参加頂きました。

「集い」開催につきましては、読売新聞、朝日新聞、京都新聞に記事が掲載され、当日はNHK京都放送局の記者も取材に来られました。

今回の「集い」で特筆すべきことは、この「集い」に初めて参加された方が14名もおられたことです。



「集い」は、日喘連事務局長の秋月さんの挨拶に続き

午前中は、清水先生より、午後からは、藤本先生よりそれぞれ

「新型インフルエンザ」について、分かり易く、丁寧且つ詳しく (清水先生) 講演がありました、

参加者の皆さんも「新型インフルエンザ」の最新情報を聞き、喘息患者だから感染しやすいこと

(藤本先生) はないが、感染すると重症化する恐れが

あることなど、正しい知識を身につけることが出来ました。

又、清水先生からは新しい吸入薬や点鼻薬の紹介とこれからいかに皆さんの症状をより良くしていくかのお話がありました。



午後からは、参加者の皆さんが楽しみにしていた、藤本先生にプロ顔負けの素晴らしい手品を披露して頂きました。

最初は、何が起こったのか (藤本先生の手品披露)

と皆さん、不思議な顔をされていました。一つ一つの技が終わるとその都度、大きな拍手が沸き起こりました。

驚きと感動とそして心が癒される見事な手品披露でした。





その後、京都市消防局の方よりユーモアも交えての救急救命講習がありました。

AEDの実習では、実際AEDが使用出来るのは、倒れた人が心室細動の状態の時だけであることも教えてもらいました。

又、人工呼吸法につきましては、参加者の皆さんにも実演に参加して学んで頂きました。

今までは助けてもらうことが多かった私達ですが、これからは少しでも困っている人を助けることが出来れば良いと思いました。「してもらうからしてあげる」の実践ですね。

4つの班に分けた分散交流会では、今回初めて参加された方々を中心に今悩んでいることや困っていることに対して、先輩の人から自分の体験を基にした親身になったアドバイスがなされました。私は、苦しかった当時のことを思い出し涙が滲んできました。自分の喘息症状がどの程度悪いのか分からない、薬・吸入を使用しても良くならない、信頼出来る医者がない、お母さんやお子さんが喘息で苦しんでいるがどのように対処してよいか分からない等等、切実な問題を抱えておられました。

そして何より困っておられるのは、相談相手もなく一人で悩み、苦しまれていることでした。

新しい吸入薬の開発、医療技術の向上などで重症化する喘息患者は減ってきていますが、まだまだ一人で悩んでおられる方が多くおられるこの現実を再認識し、今回初めて参加された方も



(質疑応答時の両先生)

含め、今後共人と人とのつながりの輪を広げ強し、絆を大切にしていくことが大事であり、皆さんの一助になるような交流会「集い」の開催意義を改めて痛感致しました。

清水先生から初めてこの「集い」に参加された方に感想を聞かれた時、皆さん異口同音に、このような「集い」があることは今まで知らなかったが参加して非常に良かった。暖かい雰囲気「集い」で、色々勇気付けられ、これから前向きに歩いて行く力をもらうことが出来たと嬉しいお言葉を頂くことが出来ました。



懇親会は、水谷先生の乾杯の音頭で始まり、わいわい、がやがやと楽しいひと時を過ごすことが出来ました。

ご参加頂きました全ての皆さん、今回もありがとうございました。